

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	小笠 恵美子
主な担当科目	実践日本語研究Ⅲ,中級日本語Ⅳ,日本語と日本社会Ⅱ,日本語と地域社会研究Ⅱ,実用日本語Ⅰ,実用日本語研究Ⅰ,中級日本語Ⅰ,日本語日本文化Ⅰ,日本語日本文化研究Ⅰ,中級日本語Ⅱ,実践日本語研究Ⅱ,日本語文法とコミュニケーション,上級日本語Ⅱ,日本語と日本社会Ⅰ,日本語と日本社会研究Ⅰ,中級日本語Ⅲ,日本語日本文化研究Ⅲ,日本語日本文化Ⅲ,実用日本語Ⅱ,実用日本語研究Ⅱ
シラバス	<a href="#">ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。)</a> <a href="#">※画面下「シラバス」&gt;「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック</a>
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	異なる言語能力、異なる目標を持つ学生を考慮しつつ、参加する学生全員に目標を明示して、それぞれのレベルの言語産出を促す。他の授業との兼ね合いで、レベルから外れた学生が参加することがあるため(初中級レベルのクラスへの、中級後半から上級レベル学生の参加がある)、追加の課題を出し、授業参加の意義を感じさせる。学生の経験(年齢や入学前の経験)を考慮しつつ言語を使って何を伝えるかを考える活動を行う。
2023年の教育に関する自己評価	プレイメントテストを行って授業参加者の指定をしても、他の授業の選択との兼ね合いで参加するレベルの異なる学生に対応するために個別の資料を準備して学びが進むように支援した。特に、書かれた文章の意味を理解することが苦手な学生に対しては、授業内のフィードバックをコメントシート以外にも巡回中に声をかけて説明を行った。修士入学を目的として学ぶ研究生の中で、特に日本語の力が修士のレベルに届かない学生数人に対して補習を行った。
2023年のFD活動に関する自己評価	語学の学内組織のFD研修会の連絡を行い準備をした。日本語の教員間では、毎回の授業の出席者、授業内容の簡単な報告文を共有し、学生の出席状況を含め、特筆すべき問題がある場合は学生に声をかけるなどの対処をした。各学期にオンラインで連絡会を行い、学生の状況、授業での問題点を共有して次の学期の内容の改善に向けた取り組みを行っている。
授業改善のために取り入れた研修内容	<ul style="list-style-type: none"><li>日本語教育学会、アジア人材還流学会に参加し、クリティカルな思考育成と言語学修の事例研究、協働的学修の推進事例などを聞いた。</li><li>高度人材の日本語能力評価の研究会で、言語の評価基準に関する話し合いに参加し、日本語の授業における評価の参考にした。</li><li>教職員のための外国人留学生就職支援研修会に参加し、現在日本企業で働く元留学生の就職活動の現状及び、元留学生を雇用する企業の現状について聞き、「キャリアと日本語」の授業の参考にした。</li></ul>

## 2023 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3021 教員名:小笠 恵美子

### 【日本語文法とコミュニケーションⅠ】

#### 1)アンケート結果に対する所見

授業が規定通りに開催されているかという点について、「少し思う」「あまり思わない」という意見が全体で 3 名あり、多くの学生が不満を感じていると捉えている。機器のトラブル、遅刻者の対処に時間を取られることが度々あり、それが不満の原因ではないかと考えている。機材トラブルの際の対処策を準備して授業を進めたい。

#### 2)要望への対応・改善方策

授業の内容について「よくない」というコメントがあり、具体的に内容を知りたいと感じている。日本語の授業としては最も基本的な授業の一つであり、文法と学生生活上最低限必要な 4 技能の向上を目的としているが、それより上のレベルを目指す学生のために、同じテーマで作文を書く時間を多く設けてそれぞれのレベルに合わせて作文するように指導していくつもりである。また、テキストの変更を行い、とり上げる文法項目の明確なものにすることで、予習復習をしやすくするつもりである。

### 【キャリアと日本語】

#### 1)評価結果に対する所見

特に記述はなかったが、興味や関心について、「あまり興味関心が持てなかった」という回答があったことから、専門の学習との関連性を示すことが必要であると感じた。

#### 2)今後の課題

経済事情の変化から留学生の「卒業後の進路」に対する考えに変化が生じていると感じている。就職活動の方法を教えるための授業ではないが、「日本事情」の一環として日本の就職スケジュール、キャリア観に触れる機会を増やすつもりである。

### 【実践日本語研究Ⅲ】

#### 1)評価結果に対する所見

明確な記述はないが、予習復習を促すことが必要だと感じた。

#### 2)今後の課題

前期は入学試験など、点数化される言語学習の必要性があまり高くないので、楽しく自分なりの学修が進められる教材の種類を増やしたい。

以上

## 2023 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

基礎ゼミ分科会

教員コード:3021 教員名:小笠 恵美子

教員コード:1851 教員名:酒井 健太郎

教員コード:3239 教員名:入江 一雄

### 1)アンケート結果に対する所見

授業アンケートの数値を見る限りでは、「どちらかという満足」を含めると満足度が90%以上と、高い満足度が示されていた。ただ、授業の内容についての自由記述や各質問を見ると全学生を対象にしていることによる感想の個人的な偏りがあることがわかる。自由記述に「グループワークの時間が足りなかった」という記述がある一方で、「既に知っている内容だった」という記述があったり「この授業の予習復習をしている」に対して「そう思う」の割合が少なかったりすることから、授業の大変さに対する感想が人によって大きく異なることがわかる。教員は学生の反応を見ながら授業の工夫をすることが必要であり、大学入学前の環境が異なる多様な学生がいることの理解を呼びかける必要があると理解した。

### 2)要望への対応・改善方策

プレゼンテーションの準備の時間、レポート提出までの期間が短すぎて足りなかったという記述があった。全体のバランスの問題があるので、時間の変更は簡単ではないが、テーマの設定や、必要事項の明確化を通してより発表がしやすくなるサポートをしていきたい。

新入生以外の学生への情報共有についての要望があった。ポータルサイトを通して細かく連絡を送っていきたいと考える。

### 3)今後の課題

新しい知り合いができた、他コースの人と仲良くなれたといった記述が多く見られた。コミュニケーションをとることは大変だという意見もあるが、大学で知識を得ることと同様に、新しい出会いに対応できるようになることもこの授業の意義の一つと考えることができている。プレゼンテーションの準備という目的達成のために仲間と協力する意義をテキストに示しているため、授業中で触れていくようにしたい。

以上

## 2023年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3021 教員名:小笠 恵美子

### 【日本語と日本社会Ⅱ】

#### 1)アンケート結果に対する所見

予習復習について、具体的に学習すべき内容を提示してすべきことを示していくつもりである。

#### 2)要望への対応・改善方策

より高いレベルの授業内容を求めている学生がいると感じている。学生によって読む速さが異なるため、待っている時間が長いと感じるのだろう。学生間の差異がある場合には追加の課題などで対処していく。

#### 3)今後の課題

テキストは読解教材でありながら「話す」「書く」といった表現活動を目指す内容になっているので、相互に話す時間を設けていきたい。

### 【日本語文法とコミュニケーションⅢ】

#### 1)評価結果に対する所見

クラス参加者が少ないので数字でいえることはあまりないが、欠席回数が多い学生が複数いる。授業に参加して計画的に課題を進めていくことの重要性を説明するつもりである。

#### 2)要望への対応・改善方策

特に要望として書かれていることはなかったが、学生同士で刺激を与えあえるような活動を入れていきたい。

#### 3)今後の課題

授業は欠席しているが、点数と関連のある課題は出すという学生がときどきいるので、授業内の活動に参加することの重要性を説明するつもりである。

### 【実用日本語Ⅰ】

#### 1)要望への対応・改善方策

より高いレベルの授業を求めている様子が見えてくる。語彙の増加を図る授業であり、かなりの数の語彙が教科書では挙げられているので、教科書を有効に活用する方法を授業内で示したい。

以上